# 令和8年度岩見沢市総合教育会議　議事録（要旨）

1　日時
令和8年10月1日（木）10：00～

2　場所
岩見沢市役所　3階庁議室

3　出席者
「出席者名簿」のとおり

4　議題
（1）　現大綱の取組状況について
（2）　次期大綱の方向性について

〇議事概要

1　現大綱の取組状況について
【委員】
●児童数の減少や担い手不足に伴い、プール施設の減少や冬期スキー環境の厳しさなど、運動を取り巻く環境が縮小気味である。子どもたちが運動する環境のあり方を大綱で意識していく必要がある。
●ピア・サポートの取組により、不登校児童減少といった成果が得られていることに加え、子どもたちの言葉遣いや態度など、人との接し方においても良い変化をもたらしているものと学校訪問を通じて実感しているところ。
●AIドリルやタブレット等の充実した環境を有効に活用しているものの、学力向上に直結していないため、もうひと工夫した具体的な指導力向上へのアプローチが必要である。
【教育長】
●2030年に向けた学習指導要領の変更（「個別最適な学び」と「協働的な学び」の二本柱）を見据え、教育委員会としてしっかり対応を考えていく必要がある。
【市長】
●児童生徒数の急減（6年後には小学生300人未満の見込み）に伴い、学校の適正配置を加速させることや、施設・設備の効率的な活用により、子どもたちにとって最適な教育環境づくりに向け協議を進めていく必要がある。
●施設の老朽化や維持管理、指導者等の担い手不足など、様々な課題を抱えるプールやスキー授業を縮小する中でも、子どもたちの体力の向上を図る方策を検討する必要があり、部活動の地域展開についても、方向性を協議していく必要がある。
●GIGAスクール環境が進展する一方で、「字が書けない」弊害への対応のほか、AIやSNSリテラシーの育成、ALTの幅広い活用、ピア・サポートの継続・発展を進めていきたい。

2　次期大綱の方向性について
【委員】
●「ICTや生成AIの活用」について、目まぐるしく変化する情報にアンテナを高く持つとともに、授業の目的に応じたデジタルとアナログのメリハリのある活用（ノートを取る等のバランス）を研究すべきである。
●ウェルビーイングに関連し、人生の質（QOL）を高める基礎としての「体力向上」や生涯にわたる運動習慣を横断的な重点項目として検討してはどうか。
●地域住民や外国人技能実習生など、学校に関わりたい地域の力を学校教育に活かす仕組みづくりやニーズを拾う工夫が必要である。